



あかね

Vol.17

令和1年9月発行
独立行政法人国立病院機構
東近江総合医療センター
広報委員会

7月から当院は敷地内全面禁煙になりました。

甲状腺腫瘍について

耳鼻咽喉科 医長 星 参

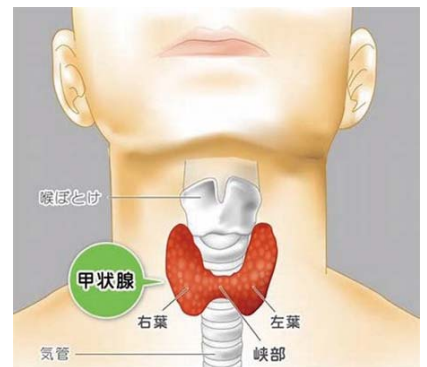
甲状腺は首の前部、のどぼとけのすぐ下にあり、重さが16~20g、大きさが縦4.5cm、横4cmの臓器です。正面から見ると蝶の形に似ています。甲状腺ホルモン(T3、T4)という体に必要不可欠なホルモンをつくっています。

甲状腺腫瘍は甲状腺にできるできもの事です。

首のしこりや腫れを自覚したり、他人から首の腫れを指摘されたりする場合もあれば、超音波検査による健診で偶然発見される場合もあります。

腫瘍には良性のものと悪性のものがあります。診断としては血液検査・超音波検査・細胞診などが必要です。

超音波検査では腫瘍の大きさ・腫瘍と正常な甲状腺との境目がとぎれていないかどうか・腫瘍の中に石灰化がないかどうか・甲状腺周囲や首のリンパ節がはれていないかどうかなどを確認します。超音波で悪性を疑う場合は超音波でみながら細い針を直接腫瘍にさして、中の細胞を採取して調べます。細い針なので血がさらさらになる薬を内服していても検査ができます。腫瘍の細胞がすくない部位では診断がつかないことが多いため、原則1つの腫瘍にたいして2回針生検をします。結果は休日などの有無にもよりますが、大体1週間ほどで診断がつきます。



・良性腫瘍と診断した場合

基本的に手術はせずに外来で経過を観察します。外来で半年~12か月(あきらかに良性で小さい場合は~24か月)や自覚症状で腫れた感じがすれば適宜受診)ごとにエコーで評価します。ただし腫瘍径が4cm以上であれば悪性の可能性が否定できないこともあるため、場合によっては手術で摘出して、病理検査で最終判断をすることもあります。

・悪性腫瘍と診断した場合

甲状腺癌の種類にもよりますが、一番多いタイプである甲状腺乳頭癌(本邦での頻度で91.2%)では

- ・ゆっくり発育し、性格がおとなしい症例が多い
- ・頸部のリンパ節への転移が多い

などの特徴があります。腫瘍の大きさが1cm以下であきらかな甲状腺外への浸潤がなく、頸部リンパ節転移や肺や骨などへの転移がない場合は甲状腺微小乳頭癌といい、予後が良好であることが示されていますので、手術をせずに定期的な経過観察でもよいといわれています。ただしあきらかなリンパ節の転移がある場合や、癌が声帯を動かす反回神経の近くにある、もしくは気管に浸潤している可能性がある場合は危険度が高く手術を勧めます。

その他の癌である、甲状腺濾胞癌・甲状腺髄様癌・甲状腺未分化癌・甲状腺悪性リンパ腫などは、腫瘍の性質が異なるため治療基準も変わります。頸部のリンパ節の腫脹は甲状腺癌からの転移以外にも、頭頸部癌(口腔癌を含む)からのリンパ節転移やウイルス・細菌感染が原因のこともありますので、頸部のしこりや腫れなどがあれば、気軽に耳鼻咽喉科を受診してください。

当院ではエコーでの精査が必要と判断する場合は月火金の午前中なら同日にエコー検査が可能です。



喉の腫れや違和感
痛くないときほど

リンパ
甲状腺

への注意が必要です

